

10月26日(土)

10:30~12:30 **イメージング**



コーディネーター  
武藤 光範  
菊名記念病院

CTO、石灰化病変、分岐部病変など複雑病変の治療において、論理的に手技を進め治療を成功に導くためにはイメージングデバイスは必須で、またそれにより再現性のあるPCIとなります。IVUSとOCTではそれぞれのメリットとデメリットがあり、病変に応じてIVUSでは何を見るべきか、OCTでは何を見るべきかを考慮して読影することが大切です。また何を見るべきかによってIVUSを選択するかOCTを選択するかを判断するべきとも言えます。CTOや高度石灰化などイメージングデバイスが通過しない病変においては、事前のCTから得られる情報はComplex PCIに非常に有益なものとなります。また石灰化病変や屈曲病変などの複雑病変や、高度石灰化によるステント不完全拡張の状況などではIVUSがstuckすることもあります。本セッションでは、複雑病変に対するPCIにおいてIVUS、OCT、CTをどのように用いて治療を成功に導くか、また複雑病変であるからこそIVUSがstuckしてしまった場合のベイルアウト方法を御講演頂きます。多くの先生方のお越しをお待ちしております。

座長  
園田 信成 佐賀大学医学部附属病院  
道明 武範 小倉記念病院

複雑病変におけるIVUSの使い方(open vessel)

藤井 健一 関西医科大学

CTO病変におけるIVUSの使い方

小林 範弘 済生会横浜市東部病院

複雑病変におけるOCTの使い方  
(分岐部病変と板状石灰化病変)

名越 良治 大阪府済生会中津病院

石灰化結節におけるOCTの使い方

船津 篤史 京都桂病院

複雑病変におけるCTの使い方

管家 鉄平 華岡青洲記念病院

複雑病変でのIVUS stuckのベイルアウト

武藤 光範 菊名記念病院

14:00~15:30 **CTO**



コーディネーター  
景山 倫也  
那須赤十字病院循環器内科

CTO-PCIは今も昔もcomplex PCIの代表格であり、PCIの総合力が必要となります。以前にはライブデモンストレーションやワークショップでしか学ぶことが出来なかったような手技も、昨今、webカンファレンスなどの媒体を通して学ぶことが出来るようになりました。その結果、CTO-PCIの敷居は10年前と比べると明らかに下がっており、どこ施設であって年代に関係なく行うことが出来るようになってきました。しかしながら、一定以上の困難病変に対しては、CTO-PCIの根本的な原理、基本的なシステム構築や手順をしっかりと理解しなくては成功に導くことは出来ません。それらの問題に立ち向かうべく、今回のFellow courseでは、CTO-PCIの中でも特に難易度の高いと言われている病変へのアプローチについて、根本的な原理と手順を基本から解説いたします。また、日本の強みであるCT、IVUSの活用法につき、基本から応用までポイントを絞って解説いたします。CCTだからこそ出来る内容となっています。皆様、奮ってご参加ください。

座長  
小川 崇之 東京慈恵会医科大学  
越田 亮司 星総合病院

テーマ  
Japanese style CTO-PCIを成功するために、CCTA、IVUSをどう活かすか

CTO-PCIにおける冠動脈CTをどう読むか

長谷川勝之 東宝塚さとう病院

IVUS guided rewiringを成功させるポイント

田中 康太 桜橋渡辺未来医療病院

テーマ  
特に難易度の高いCTO病変を成功に導くエキスパートからのTips & Tricks

Ostial CTO病変に対するTips & Tricks

新関 武史 公立置賜総合病院

Long CTO病変に対するTips & Tricks

藤田 雅樹 江戸川病院

Heavy calcified CTOに対するTips & Tricks

芹川 威 福岡和白病院

Complex Cardiovascular Therapeutics 2024

CCT 2024

会期 2024年10月24日(木)~26日(土)

会場 ポートピアホテル Coronary Theater 3

Fellow Course



# F CCT2024 Fellow Course



CCT Supervisory Director

那須 賢哉 三重ハートセンター

CCT2024のFellow Courseでは、Complex PCIを行う術者が学ぶべき基礎的な知識やTips and tricksを網羅しています。病変評価にとって欠かせないイメージング、日常臨床において分岐部病変、石灰化病変、CTO病変の中でもより難易度の高い病変を安全にそして効果的に治療するノウハウを学ぶ機会を提供したいと考えています。同時に一定の確率で遭遇しうる合併症に対するマネジメントと予防を学ぶコースもご用意しております。日常臨床へのフィードバックへの材料として、是非ご活用ください。

## 10月24日(木)

### 14:30~15:30 複雑病変治療中の合併症



コーディネーター  
道明 武範  
小倉記念病院

PCI術者にとって合併症はある一定の確率で発生するものと心得ておく必要があり、その対処法に精通しておくことは必須事項である。手技の難易度は患者背景や病変の複雑性に依存するところが多いため、手技を完了するにはある程度リスクを覚悟した上で手技を進める必要がある症例にも遭遇する。しかし難易度が高い手技であっても合併症が起こるシチュエーションを予見しえるものも多く、リスクがどこに潜んでいるのか、どうすれば避けることができるのか、また不運にも起こってしまった際にどのように対処するのかを、事前に熟考の上、準備し臨むことでクリティカルな合併症を防ぐことが可能となる。その一方、合併症に遭遇する経験は多くはなく、個人の経験のみでは十分な対処法を身につけることは困難である。そのため、本セッションでは、エキスパートの術者より実際の症例を共有いただき、合併症に対する事前の予見できるか、合併症が起こった場合にどう対処すればよいかについて議論する形で合併症の見識を深めたいと考えています。

#### 座長

小川 崇之 東京慈恵会医科大学  
道明 武範 小倉記念病院

#### コメンテーター

石原 昭三 耳原総合病院  
景山 倫也 那須赤十字病院  
小林 範弘 済生会横浜市東部病院  
管家 鉄平 華岡青洲記念病院

#### ステント脱落 関連

小林 範弘 済生会横浜市東部病院

#### デバイススタック(ワイヤー、IVUS etc) 関連

管家 鉄平 華岡青洲記念病院

#### 冠動脈穿孔 関連

石原 昭三 耳原総合病院

#### CTO治療中のトラブル

(側副血行路トラブル、Donor arteryのトラブル) 関連

景山 倫也 那須赤十字病院

## 10月25日(金)

### 10:30~12:30 分岐部



コーディネーター  
石原 隆行  
関西労災病院

薬剤溶出性ステントなどのデバイスの進歩によって、PCIは冠動脈狭窄に対する標準的治療法としての地位を確立しました。しかし、全体の10-15%を占める冠動脈分岐部病変の治療成績は、依然として満足のものではありません。石灰化病変、CTO病変と並んで、分岐部病変はPCIに残された最後の“アキレス腱”です。血管内イメージングを用いたPCIが本邦のPCIの特徴の一つですが、まずその血管内イメージングを用いた分岐部病変に対する治療戦略についてご講演頂きます。その後最も重要な分岐部であるLMT分岐部病変に対する治療戦略と治療に難渋する高度石灰化を伴う分岐部病変に対する治療戦略についてご講演頂きます。そして、最も治療の難易度の高いCTOを伴う分岐部病変に対する治療戦略をご講演頂きます。最後にまだエビデンスの十分でないDCBを用いた分岐部病変に対する治療戦略について述べさせていただきます。分岐部病変の中でも難易度の高い病変群に対するComplex PCIについて網羅できる内容となっています。ぜひ多くの先生方のご参加をお待ちしています。

#### 座長

名越 良治 大阪府済生会中津病院

#### 血管内イメージングを用いた分岐部病変に対する治療戦略

中村 大輔 大阪大学医学部附属病院

#### LMT分岐部病変に対する治療戦略

仲野 泰啓 九州大学病院

#### 高度石灰化を伴う分岐部病変に対する治療戦略

岡本 直高 大阪ろうさい病院

#### CTOを伴う分岐部病変に対する治療戦略

横井 研介 佐賀大学医学部附属病院

#### DCBを用いた分岐部病変に対する治療戦略

石原 隆行 関西労災病院